

南米アンデスとアイヌの人々の間で

ふじた まさひろ
藤田 護

環境情報学部 専任講師

ラテンアメリカ地域とスペイン語の社会言語学、そしてアイヌ語の口承文学を研究する、それぞれ15名弱の2つの研究会です。

私はラテンアメリカ地域研究とアンデス人類学を出発点として研究を始め、特に南米のペルーとボリビアでは、大学生・大学院生としての研究や、在ボリビア日本大使館での専門調査員の仕事で、長い年月を過ごしてきました。特にいくつかの家族と生活を共にする中で、先住民の存在感が年々増すアンデス社会で、先住民の言葉の世界やアンデス社会をどのように見るかを、家族の視点から教わってきました。

その後、日本社会で研究者として生きていくにあたり、アイヌ語とアイヌ語の口承文学の勉強を始め、フィールドワークを通じて口承文学や先住民言語とどのように関わることができかに、少しずつ目を開かれていきました。湘南藤沢キャンパスでは、教員が2種類の異なる研究会を担当することが可能になっているため、この2つの研究会をそれぞれ研究会として立てています。私が驚くほどに熱心な学生たちに多く恵まれ、充実した議論と考察の場となっています。



“南”からの思考(スペイン語圏の言語と社会の研究)

に わしゅうせい
丹羽 秀成君 総合政策学部4年

研究会ではスペイン語圏の言語と社会を中心として、輪読を通じて議論を行い、学生の理解や関心を深めています。多種多様なバックグラウンドを持つ学生がいることからそれぞれが関心を持つ内容は多岐にわたり、研究会で扱うテーマはバラエティに富んでいます。

その上で大切にしている軸が「南」からの思考です。ラテンアメリカは複雑な歴史と構成を持つ社会であり、現代世界に対して異議を唱え、新しいビジョンを提示してきた背景があります。

また半学半教の精神の下、教員と学生という立場において分け隔てることなく、お互いが学び合い、教え合う存在として自由闊達な意見交換を実践しています。

アイヌ語・アイヌ語口承文学を学ぶ

ほんだ よしや
本田義矢君 総合政策学部4年

アイヌ語・アイヌ語口承文学研究会は、北方のアイヌ民族に関する言語・文化・社会を中心に、広く文化人類学やオーラルヒストリーに関する理解を日々深めています。

研究会内では、論文や研究書を読み進め、その内容に対して議論を交わす「輪読」、教材や物語を通じての「アイヌ語の講座」などを主に進めています。

学生の意見に親身に寄り添い、整理して論点を導いてくださる藤田先生の下、文化、言語、自然、神話など多岐にわたる分野に関心を持つ個性的な学生が集まっています。学生の多様な視点からの論点生まれ、全員でそれを受け止め、(ときどき時間を超えつつも)ゆっくりと論じていける研究会です。